

F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Nov 2015 - Oct 2020

持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。農林省森林局(M AF-DOF)を実施機関として協力しています。

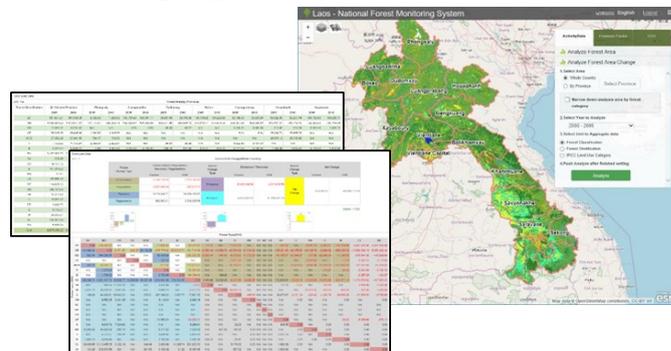
国家森林モニタリングシステムの設計及び開発

REDD+を実施する国は段階的な国家森林モニタリングシステム(National Forest Monitoring System: NFMS)の構築をもってREDD+活動を的確かつ透明性をもってモニタリングし、報告することが求められています。ラオスで実現するNFMSのスコープやロードマップはREL/MRV技術作業部会等を通じて合意形成が図られており、第1段階としては二酸化炭素(CO₂)の排出・吸収を計測する機能(MRV*のM (Measurement))を主な目的として開発を進めることが合意されています。

NFMSは既にDOF所管のサーバにセットアップが完了し、2000年、2005年、2010年、2015年の衛星画像データや森林区分図、森林被覆変化図、全国規模の森林調査である国家森林インベントリ(NFI)結果等の情報を格納しています。また、それらのデータを利用して、全国・県別の森林区分の面積/面積変化やCO₂排出・吸収量/排出・吸収量変化の計算をするための機能が実装されています。システムの最終的なチェックを経て、2017年12月には、第1段階で予定していた機能の開発及びデータの搭載が一通り終了する予定です。そのため、DOF職員が持続的にNFMSの管理・運用・改良できる能力を向上させるべく、11月にNFMS管理・運用研修を約3週間に亘って実施することを予定しています。

2018年以降は、NFMSの試験運用を通じて抽出された課題と対策を整理し、改修とフィードバックを繰り返すことで、NFMSの本格運用を目指します。さらには、森林モニタリングなど、段階的に機能を拡張して行くことが目指されており、F-REDDを中心に他のプロジェクトと協力しながら支援して行く予定です。

*MRV: REDD+実施状況を計測(Measurement)、報告(Reporting)、検証(Verification)するための仕組み。



NFMSで表示した森林面積、CO₂排出・吸収量変化の計算結果及び森林区分図

ルアンプラバン県の保護林管理計画づくりを開始しました

F-REDDはルアンプラバン県の県REDD+活動計画(PRAP)の策定を支援しています。PRAPには、ルアンプラバン県の森林減少要因とその対策が記載されていますが、そのひとつとして、保護林管理の強化が挙げられています。保護林は、ルアンプラバン県面積のおおよそ6割を占め、また6割の森林がこの保護林内に残っており、農地の拡大等による森林減少が進行する中で、保護林をいかに適切に管理するかが重要課題となっています。

F-REDDではルアンプラバン県農林事務所と協議しつつ、ルアンプラバン市内に近いながらも比較的手付かすの自然が残されているプーン・プーパトゥン・タットクアンシー保護林、約34,000haをパイロットエリアとして選定し、REDD+パイロット活動支援の一環として、保護林管理計画の策定を開始しました。

まず、対象保護林の衛星画像や数値標高モデルを解析して、また村落での聞き取り調査を通じて、治山・治水の観点から必要な情報の収集

を開始しました。例えば、過去15年間で乱れのない森林の特定や、重要水源及び河川、斜面崩壊地あるいはその可能性のある区域の特定を進めました。また、生物多様性という観点からも検討を進め、対象保護林の領域内に生息する、絶滅のおそれのある野生動植物種のリストの作成とその生息地を特定するための情報収集を行いました。

対象保護林の中では昔から村が存在しており、焼畑などの土地利用も確認されています。これらの土地利用との調整を図るために、収集された情報を元に、保護区内でも特に重点的に保護すべき区域(TPZ: Total Protection Zone)と一定の利用を認める区域(CUZ: Control Use Zone)にゾーニングし、それぞれのゾーニングにおける保護林管理計画の策定を進めています。今回のパイロットにおける保護林管理策定を通して、県の保護林管理の実施体制や、計画・実施能力が強化されることが期待されます。



上: 村落での聞き取り調査の様子。保護林境界の確認及び保護林管理計画に必要な情報の収集を行った。

下: 水道公社が取り決めている水源管理区域を確認した。

本邦研修：森林の多目的利用



上：高尾山では地域と連携して森林保全・管理を行っている。（高尾森林ふれあい推進センター）
中：人工林に広葉樹を植栽して、より自然度の高い森林へ変換する試みを行っているパッチワークの森（NPO山村塾）
下：村産材で作成されたモデルルームにて意見交換（諸塚村）

F-REDDはラオス政府職員の能力強化を目的として、昨年に引き続きラオス行政官を対象に本邦研修を実施しました。今回は「森林の多目的利用」をテーマとして、DOFの中央職員3名とその傘下であるルアンブラバン県職員3名が参加しました。

日本が合法的に伐採された木材等の利用と流通の促進を目的として施行したクリーンウッド法¹に関して林野庁およびFAIRWOOD PARTNERS¹から異なる視点で講義をうけました。ラオスでは昨年より厳しく取り締まられている違法伐採に加えて、合法材を適切に輸出管理する必要性を学びました。

また、林野庁で森林の多様な空間利用に関する講義を受けた後、それらの実践例を複数視察しました。高尾ふれあい推進センターでは学生・児童を対象とした森林教育や地域ボランティアを巻き込んだ森林整備などを実施している現場を訪問しました。ラオスでは地域住民をどのように巻き込んで森林管理を行うかが重要な課題となっているため、研修員は非常に興味があるようでした。また、福岡県では、八女市が事業主体として推進している森林セラピーを視察し、エコツーリズムの視点で森林を活用し、かつ行政の歳入ともなる点が特に勉強になりました。同じく八女市で都市の住民や海外からのボランティアを巻き込んで山村振興を行っているNPO山村塾を訪問し、市民が主体となった森林管理の事例を学ぶことができました。

宮崎県諸塚村では行政が個人の林家や地元の企業を後押ししている林業振興の好例を視察しました。ここでは行政が森林認証制度（FSC）の取得を主導したり、木材加工場や販売経路開拓の支援をしたりしています。また、それとは対照的に江戸時代からの既肥林業²の流れを汲み、今もなお国有林での分収造林³を実施している宮崎南部森林管理所を訪問しました。ここでは行政の歳入と地域住民の利益という双方にメリットのある施策を実現しています。仕組みや体制は違えども林業を推進している日本の好例を対比する形で見学できたことは研修員にとってよい刺激であったようです。

本研修はその目的の通り多岐にわたる分野を組み込んでいましたが、適切な森林管理には総じて行政と地域住民の連携が鍵となっていました。ラオスにとってどのような関係性や仕組みを取り入れて森林保全・管理を行っていくかを考える非常によい研修であったと考えられます。特に、研修員からは日本の森林管理の確立された仕組みから学ぶことが多いとの好評を受けました。

*1 FAIRWOOD PARTNERS: 途上国の違法伐採防止および日本を含む木材輸入国の合法木材利用推進を目的として国際環境 NGO FoE Japanと（財）地球・人間環境フォーラムが共同で行っている活動。 <https://www.fairwood.jp/index.html>

*2 既肥林業：江戸時代に既肥藩における造林政策によって形成された林業地及び施肥方法。藩と藩民で木材伐採の収益を配分した。

*3 分収造林：森林地所有者、造林実施者の2者が共同で植林を行い、伐採時の収益をあらかじめ取り決めた比率で分配する施肥方法。

成果毎の主な活動

成果1：中央政府の森林セクター支援

- ◆本邦研修（9月）
- ◆第2回森林サブセクター作業部会会合

成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆UNFCCC向け国家RELレポート作成
- ◆FCPF炭素基金ERPDのREL/MRV関連箇所の検討および執筆作業
- ◆NFMS構築支援

成果3：国レベルのREDD+支援

- ◆第5回REL/MRV技術作業部会会合開催
- ◆FCPF炭素基金ERPDの作成にあたっての検討、調整および執筆作業

成果4：ルアンブラバン県のREDD+準備支援

- ◆県REDD+活動計画（PRAP）最終コンサルテーション開催
- ◆PRAP優先政策パイロット保護林管理計画策定のための情報収集調査及び解析作業

コンタクト

プロジェクトオフィス

Kouvieng Street, Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536

プロジェクトHP

<http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html>

次期四半期のイベント

Oct.
プロジェクト中間評価

Nov.
NFMS管理・運用研修

Dec.
FCPF炭素基金ERPDコンサルテーション（中央、地方）
第6回REL/MRV技術作業部会会合



農林省
Ministry of Agriculture
and Forestry (MAF)



独立行政法人
国際協力機構